

名古屋 文化情報

2019
7・8
July / August

No. 387

NAGOYA
Cultural
Information

随想／ほりみか(演出家・振付家)
視点／変化する名古屋のポピュラーミュージック・シーン
この人と…／原 智彦(ハラプロジェクト主宰)
いとしのサブカル／渡辺 健一(トリックアート作家)



2019

7・8

July / August

Contents

名古屋市民文芸祭 小・中学生の部 受賞作品…………… 2

随想 未来の君たちへ～ 虹は何色？
ほりみか(演出家・振付家)…………… 3

視点
変化する名古屋のポップラーミュージック・シーン…………… 4

この人と…
原 智彦(ハラプロジェクト主宰)…………… 6

ピックアップ すぐそばの町にあるワクワク・ドキドキ
——山車まつり見学のすすめ——…………… 10

いとしのサブカル 渡辺 健一(トリックアート作家)…………… 11

おしらせ…………… 12

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 森本悟郎 (表現研究・批評)
- 山本直子 (編集・出版 有限会社ゆいぼと代表)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座制作部長)
- 米田真理 (朝日大学経営学部教授)
- 渡邊 康 (椋山女学園大学教育学部准教授)

表紙

作品

不定形への憧れ(展示の一部)

(2018年/紙、インク/8m62cm×2m20cm)

ドローイングが描かれた紙片は、日々を生きた自身の姿に他ならない。いくつもの私がかつつき、伸びて縮んで分裂して広がっていく。作品は私の生きた痕跡や時間であり、生きている限りつながり変化し続ていく。



三科 琢美 (みしな たくみ)

- 1981年 愛知県生まれ
- 2011年 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科博士
後期課程満期退学
- 2017年 「KOMOREBI展」(リユー・ユニック)
- 2018年 個展「生成のリズム」(のこざり二)

<http://mishintakuan.tk>

「2018年 名古屋市民文芸祭」
(第八九回名古屋短詩型文学祭)小・中学生の部
俳句の部 受賞作品より ※受賞時の学校・学年で掲載しています。

◆市長賞◆ 名古屋市立供米田中学校3年 原口舞優

アスファルト叩く夕立反抗期

◆市会議長賞◆ 名古屋市立有松中学校3年 石川杏音

夕焼に優しく響くオルゴール

◆市教育委員会賞◆ 岐阜市立本荘小学校4年 木村駿太郎

雨上がりせいっぱいにせみがなく

◆市文化振興事業団賞◆ 名古屋市立天白中学校1年 立川理紘

通学路春一番が背中押す

◆名古屋短詩型文学連盟賞◆ 名古屋市立天白中学校2年 城間心花

お布団に向けて昭和の扇風機

◆中日賞◆ 名古屋市立守山東中学校3年 上田大和

森のおく鳴くハルゼミに誘われて

随想

未来の君たちへ～ 虹は何色？^{なにいろ}

ほりみか(演出家・振付家)

3歳より奥田敏子にモダンダンスを師事。その後、ジャズ、タップダンスを向井十九(東宝)、クラシックバレエを佐々良子に学ぶ。『三文オペラ』(鈴木完一郎演出)、『メリー・ウィドウ』(宮本亜門演出)、『マイ・フェア・レディ』(中村哮夫演出)等、数多くの舞台に出演。NHK名古屋放送局報道番組ディレクター、総合劇集団俳優館10年間所属の後、フリーとなり、小牧、知立など各地の市民ミュージカルや市民劇、合唱ミュージカルの演出、振付を手掛ける。2011年より俳優館夏休みファミリー劇場の演出・振付を担当。現在はミュージカル『あらしのよるに』を全国巡演中。

平成13年度東京都優秀児童演劇選定奨励賞受賞(ミュージカル『ムクバクとチャチャねこ』)。日本演出者協会会員。愛知文教女子短期大学講師。M.カンパニー主宰。

輝く緑の中、「令和」という新しい時代が始まりました。今これを書いている5月、木々の若芽は輝き、色とりどりの花たちが生き生きと咲き誇り、赤、ピンク、紫、黄、沢山の色で私たちに喜ばせてくれます。言葉にできない様々な色で。人間は古来より続く民族の環境により、見える色が違うそうです。日本人にはせいぜい白・灰色・黒、と分けてしまうような「冬」の色も、年中雪に閉ざされたような環境で生きてきた民族には色々な「白」が見えるとか。また、南国の年中色とりどりの花が咲き乱れる環境で生きてきた民族には私たちより沢山の色が見え、虹も7色ではなく、もっと沢山の色に見えるとか。今以上に沢山の色や音、風、雲、すべてがもっともっと感じられたらどんなに豊かにものを見られるようになるのでしょうか。ものの見方が広がれば心も広がる。

私は演劇、ミュージカルなど、舞台の世界に生きています。人間の生活にはなくても構わないものといえるかもしれませんが、でも、「なくても構わない」ものに触れ、何かを感じるのは無駄なようでとても素敵なことではないでしょうか。無駄に見えることから何かを発見し、心の中に育てていく。平成の時代にスマホやパソコンが急激に普及し、人間の没交渉化が加速しています。子ども達は集まっ

ても会話はなく、スマホやゲーム機を個々に触っている。電話よりLINE。買い物はネット。ますます言葉を発する機会が減り、コミュニケーションがうまく取れない人達が増える。新しい令和の時代、そんな時代にしたくない。

私は演劇を通して子ども達と接する機会が多くあります。演技を教えたり、一緒に芝居を作ったり、あるいは鑑賞会で芝居を見せたりします。芝居を作る過程では年齢差を越え、助け合い、教え合い、誰が教えるでもなく自然にチームワークが出来上がっていきます。困っている仲間を助け、自分で考えて動く、という現代の若者に欠けているといわれる部分が養われていきます。普通の学校生活だけではなかなか経験できないことではないでしょうか。

何もかもが便利に簡素化され、労力も思考も必要なくなっていくような令和からの未来。すべてがAIに取って代わられそうな危機感を感じながらも、芸術だけは負けないぞ！という自負があります。

未来に向かう子ども達。スマホやゲームだけでなく、見えないものを見て、見過ごしてしまいそうなものを感じ、無駄なこといっぱい体験し、もっともっと沢山の色が見えるようになってほしい。君たち、大人になったら、何色の虹が見えるかな。^{なにいろ}

変化する名古屋の ポピュラーミュージック・シーン

LPやCDなどから、ストリーミング配信が主流となった今、若者の音楽の聴き方、発信の仕方はどうなっているのだろうか。

時代とともに変化している若い世代のポピュラーミュージック・シーンを名古屋の実例をもとに概観する。
(まとめ: 渡邊 康)

音楽産業構造の今

時代が平成から令和へと移り、政治経済をはじめ社会のスキームが大きく変化している。キャッシュレス化が政府主導で進められているのもその一例だが、音楽の分野でもデジタル化が爆発的に進展し、ジャズ、ポップスといった音楽産業の情報発信の変化とともに、その享受の仕方も変化している。アマチュアでもITを通じて世界に発信することが可能となり、それに合わせて音楽産業の構造自体も、大きく様変わりをしている。

ITを利用したライブ活動のストリーミングやSNSを若者は自由に駆使しているが、多くのシニア世代にとっては変化が急激で、理解するのも一苦労ではないだろうか。

やはり、若者こそ次世代の原動力である。そこで名古屋の若手アーティスト三者の実例を紹介したい。

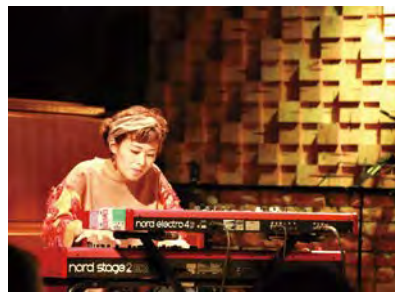
その1 J-JAZZ / IKU(いく)

IKUは1991年名古屋生まれ。愛知教育大学大学院修了後、本格的に活動をスタートさせた。個人での活動であるIKUprojectに加え、The Hey Songの名でバンド活動を行っている。2017年11月、The Hey Songの楽曲「morning view」がiTunesジャズチャート1位を獲得、個人では2019年3月に「Halu」が同チャートで4日連続1位を獲得した。また大手レーベルのピクチャーエンタテインメントから2019年5月にファーストMini Album「seed」がリリースされた。そしてリリースツアーとしてこの9月から全国7箇所での公演が決まっている。活動開始から数年で全国展開のスタート位置に立ったわけである。



J-JAZZは海外の伝統的なJAZZや近年のJAZZロックを、日本人に馴染みの深いスタイルに翻訳してより多くの人に聴いてもらうことを目標にした、歌のない「インスト」楽

曲である。その草分けとしてSPECIAL OTHERS、JIZUEなどの東京のバンドが人気を集めた。筒美京平や都倉俊一の高度成長期の歌謡曲が、洋楽のヒット曲を参考に日本人に受け入れられやすくアレンジしたという事例に似ているが、J-JAZZの多くの作品も確かな音楽の知識と技術に裏付けられている。そこに名古屋発ピアノ・インストのアーティストとして加わるわけだが、彼女のコンセプトは、ピアノの音を主体に、一曲一曲に「情景の浮かぶ」「感じるものがある」かつ「ストーリー性のある」音楽を目指すというものである。彼女の曲は親しみやすく、豊かな情景描写でイメージを喚起する。TV番組のBGMにも多用されており心地よい。直近のIKUの名古屋JAMMIN'のライブでは「Halu」を含む軽快な演奏を繰り広げた。縦横無尽なキーボードテクニックが光り、観客の熱気は増すばかりだった。



アナログレコードからCDへ、そしてMP3等へとファイル化が進み、現在はストリーミングとダウンロードによる音楽鑑賞が主流である。現在、Apple

Music、Google Play Music、Spotifyなど15社ほどでサービスが提供されている。

月々千円前後の定額料金を聴き放題になり、音質もよく曲数も無限なほど多い。各社、得意不得意な分野もあるが、筆者が利用しているものはクラシック、ジャズが豊富で、今までは探すのが困難な楽曲も多く入手でき、重宝している。

ストリーミングはインターネットに接続していなければ聴くことができないが、気に入った曲を好きな時に聴きたいという需要のために、楽曲ごとにダウンロードすることも可能だ。

また聴くだけでなく、自分の曲をアップロードし、インターネット利用者に聴いてもらうこともできる。そ

れが収益につながるため、活動の励みにもなる。IKUのiTunesジャズチャートはこのシステムを利用したもので、「Halu」は4日間で約2,000回のストリーミングがあった。

Twitter、InstagramなどSNSの情報発信の重要性は増している。もとは個人間のコミュニケーションを目的としたものだったが、アメリカ大統領が発信する情報が話題になることをみてもその影響力は大きい。個人でもプロフィールを公開し、活動を宣伝し、リンク機能によりネットワークを拡げることができる。「#(ハッシュタグ)」はSNSで情報発信するうえで有効なツールとなる。例えばTwitterで「#J-JAZZ」とつけて投稿すると、J-JAZZに興味のある人に情報をピンポイントで届けることができるわけだ。ライブ情報なども効率良く発信することができる。総務省情報通信政策研究所「情報通信メディアの利用時間と情報行動に関する調査」によると、2016年におけるTwitterの使用割合は、10代61.4%、20代59.9%で全世代の平均27.5%を大きく超える。この世代にアピールするには絶好のツールといえるだろう。紙媒体のチラシは現在でも有効なツールだが、経済面、スピードの点ではSNSは有効である。

その2 女子大生シンガーソングライター／京夏

京夏はピアノの弾き語りを得意とする現役女子大生シンガーソングライターである。ポピュラーミュージックの名曲のコード進行や、サウンドの特徴をよく消化した曲、透明感のある力強い声が印象的だ。現在は@FMで毎週日曜日25:30から「金山わくわくテラス」にパーソナリティとして出演するほか、Instagramの動画配信機能を用いて「インスタライブ」を毎週木曜日22:00から配信している。リアルタイム配信の後もリプレイ動画を24時間限定で閲覧できる機能もある。スマートフォン一台あればライブ配信できる簡便さは、テレビ世代にとっては驚きでしかない。なお既存のラジオ局の放送も、インターネットラジオ局で一定期間聴くことができるサービスがあり、深夜放送の番組でも自分の都合にあったタイミングで聴くことができる。これもインターネット時代ならではの仕組みである。



京夏は大学1年生だった2017年5月、金山総合駅南口広場での路上ライブで活動開始。既存曲のカバーだけでなく、10歳から独学で始めた作曲力を活かしてオリジナル曲を歌い続けた。9月にはアスナル金山の公開オーディションに合格し、毎週月・火曜日に行われる「アスナルら

いぶ」に月一度のペースで出演している。また、同じく南口広場で開かれる「金山にぎわいマルシェ」の毎月第4土曜日曜においては、ステージライブの司会とともに演奏もしている。また、これまでの活動の集大成として、12月24日に新栄HeartLandにて「X'masファーストワンマンライブ2018」を開催。オリジナル曲を中心に、ストリート時代からの熱心なファンに応えた。

京夏の活動は路上ライブがスタートという古典的な方法がかえって興味深い。それがITと結びつき活動の幅を広げている事例であろう。

その3 高校同級生バンド／all moss tea

all moss teaは女性ボーカル、ピアノ、ベース、ドラムというギターレスのピアノメインのロックバンド。ライブ活動を中心に、コンテストに積極的に参加している。大須OYS、新栄のSIX-DOG、APOLLO BASEなどのライブハウスで活動してきた。また全国規模のロックバンドの登竜門である「未確認フェスティバル」の2017年大会では第2次審査のウェブ審査・投票に駒を進めた。ウェブ審査は不特定多数の聴き手による投票というインターネット時代ならではの枠組みであり、SNS上での拡散という日頃の活動も重要になる。また、2018年には東京新木場で毎年夏にガールズバンドSILENT SIRENが主催するロックフェスティバル「サイサイフェス」に、メジャーアーティストに混じ



り参加した。そうした場でのバンド間の交流も、次のコラボへと結びつく貴重なチャンスになっている。

まとめ

彼女達はそれぞれ個性的に活動している。共通するのはインターネットでの動画配信やSNSの利用で、今や必須条件といえる。こうした若い世代の活動は、アマチュアとプロの境目を非常に曖昧なものにした。一方で直接的なコミュニケーションが音楽活動の中心であることは今も変わらないようだ。ライブは直接のコミュニケーションの場であり、プロモーションや仲間作りも直接のコミュニケーションが基礎となる。その基礎にITを活用する環境が整ったことにより、音楽産業の在り方も変化したといえるだろう。クラシックの世界でも同様の変化が起きており、時代への順応を模索している。ほんの一部だが、IT時代の多様な活動をお伝えできたのではないだろうか。

この人と...



ハラプロジェクト主宰

はら ともひこ

原 智彦さん

原智彦の演劇的半生

音楽・映像・美術・役者が渾然と織りなす独自の舞台を現出させるハラプロジェクト主宰者にして、自ら制作、台本、演出、役者をこなす原智彦。「僕の生活、生き方が演劇。僕のいるところが劇場」だと言うが、実体は演劇のみに回収できない多面的な表現者である。原智彦はいかにして原智彦となったのか、インタビューと資料をもとにその歩みをたどってみたい。(文中敬称略)
(まとめ: 森本 悟郎)

表現者の黎明期

原智彦は1946(昭和21)年7月4日、長野県西筑摩郡(現木曾郡)大桑村須原生まれ。3歳頃関西電力社員である父の転勤に伴い岐阜県中津川市西山に転居し、'52年中津川市立西小学校入学。'54年名古屋市への再転勤で名古屋市立八事東小学校に転入。この年、絵で愛知県知事賞を受賞した。幼い頃から絵を描くのが好きで得意だった。

'59年名古屋市立天白中学校に入学して卓球部に所属。翌年の文化祭では原の演出で『金色夜叉』を上演。自らお宮を演じる。'62年愛知県立東山工業高校(現愛知県立愛知総合工科高等学校)機械科入学。山岳部に所属するも、腎盂炎発症により運動を禁止された。

'65年高校を卒え、中部電力(以下、中電)に入社。勤務先は新名古屋火力発電所運転課。腎盂炎を抱えた原は中電のさまざまなクラブ活動から謡曲部、弓道部、ソシアルダンス部を選ぶ。しかし汗をかくのが好きな原はサッカー部にも入る。ポジションはゴールキーパーで、やがて中電代表GKとなる。腎盂炎はサッカーを始めたら治ったという。

クラブ活動とともによく旅をし、登山も再開した。一方仕事の覚えは早く、3年ほどで危険物取扱主任など国家資格を全部取った、というから模範的で有能な社員でもあった。

会社でできることはやり尽くしたとの思いから、'69年東京デザイナー学院インテリア科夜間部に入社。原と歳が近い講師の沢田晴一郎、河合英治と親交をもち、やがて彼らと〈ゴミ事件〉を起こすことになる。この年偶然に小



3歳頃、兄弟たちと須原自宅庭で(前列左)

学校の同級生でデザイナーの河村靖雄と出会う。それは原が彫金にとり組むきっかけにもなるが、河村に誘われたのは第1回名古屋野外彫刻展への出品だった。作品は「赤い布きれに丸い空間を開けたのをポールにつけて、現在名古屋美術館があるあたりに出した。言うなれば〈僕の日丸〉」だった。

岩田信市とゴミ裁判・市長選挙

翌'70年7月27日原たちN・A・Gは愛知県文化会館美術館で『N・A・G展』開催。ゴミを出品したことで29日に美術館側から封鎖される。

「N・A・Gはゴミの展示会をやるために作ったグループ。縄を張ってそこにゴミをどんどん増やしていく、それが〈僕の場所〉ってことで。仮にお客がそこにゴミを置けば、その人はN・A・Gの一員というわけです。ジャンクアートなんてすでに常識でしたから、問題になるとは思わなかった」

封鎖翌日、N・A・Gは愛知県文化会館地下の食堂でシンポジウムを開く。そこに岩田信市（名古屋発祥の前衛芸術グループ〈ゼロ次元〉を加藤好弘とともに主導）が参加。これが二人の初対面で、以後の原の（同時に岩田の）人生を決する出会いでもあった。「うちがあかなければ裁判という方法がある」という岩田の主張を受け〈美術館を告発する会〉が結成される。10月19日、原たち5名を原告として名古屋地方裁判所に訴状を出す。弁護士は後の四日市市長・井上哲夫と平野保。以後『利用許可取消処分の取消等請求事件（ゴミ裁判）』公判は'74年の第25回まで続き、その間原たちは〈ゴミ姦団〉を結成して広報活動を展開。'71年から'75年までガリ版刷りの『ゴミ姦報』を刊行し、'71年第2回名古屋野外彫刻展に『ゴミ神社』を出品しようとして展示会が中止となったり、'72年元日に名古屋から東京の夢の島までの〈ゴミ巡礼〉も行う。当裁判は'75年2月24日結審し敗訴。

'70年原はパフォーマンス集団〈KICK〉〈頭脳戦線〉を結成。同年12月ゼロ次元が儀式映画『いなばの白うさぎ』上映会を俳優座劇場（東京・六本木）で開き、全裸のパフォーマンスに原も出演する。原の初舞台である。'72年連合赤軍事件に想を得て岩田と企画した〈ロックオペラ〉『愛の浅間山荘』を名古屋大学豊田講堂で上演。それまでの純芸術的なパフォーマンスから演劇への第一歩を踏み出した。以後'76年までに3本を上演し、原は全てに出演。

'71年自らの活動に専念するため中電を退社する。

この時期のもう一つ大きなイベントは'73年名古屋市長選挙である。ジェリー・ルービン著の『Do it!』（やっちまえ！）に触発され、若い世代から市長を出そうと考えた。2月〈名

古屋市長選レインボー作戦〉を岩田と企画し、原は選挙事務局長となる。

市長選には予備選挙で自分たちの代表を出そうと岩田（'35生）、グラシヤス（矢矧雅英、'46生）、元前衛芸術グループ九州派の一員で在米中の桜井孝身（'28生）の3名を予備選候補者に。選挙の作戦集会、指名大会は名古屋と東京で行い、参会者の拍手の大きさを岩田が市長選候補者となる。

選挙事務所は久屋公園テレビ塔前に張ったテント。人が来た時の対応のため、原が泊まった。街宣の人力リヤカーは今池まで行ったところでみんなへトへトになったため、以後



「リヤカー街宣」名古屋市長選
(岩田：左から2人目、原：左から3人目) 1973

はバイクで引っ張った。この選挙は本気で票の獲得をめざして、団体名の〈レインボー革命市長選団〉の虹色になぞらえた『七つの公約』は真剣に議論し、立会演説会も全部行った。原が岩田に代わって立会演説をしたこともあった。市長選は4月22日の投開票で本山政雄が当選。

アーティスト・ユニオン、大道町人祭

'75年美術家・吉村益信が呼び掛けたアーティスト・ユニオン設立に呼応して、原と岩田は〈アーティスト・ユニオン大須派〉を名乗り、東京都美術館のシンポジウム'76・'77に出品している。'76年アーティスト・ユニオン大須派はシネマ・ルームT・G、写真集団モグの3派連合で〈大須実験ギャラリー AMP〉を西大須ビル3階に開設。ギャラリー賃貸契約は同年原が設立した〈(有)CNDY〉名だった。CNDYは中電退職後、原個人で行っていたアクセサリーの製造販売を10人程の規模で設立した会社。表現活動には「銭と時間が必要」なので文化事業部をつくり、数々のパフォーマンスや祭り、初期のスーパー一座の運営などを担った。アーティスト・ユニオンは1年余りで急速に活動が萎み、ゼロ次元もこの頃には活動が終息し、岩田信市のパートナーは加藤好弘から原智彦へと移っていた。

原が大須仁王門通にCNDYを開業した頃の大須はシャッター街だった。そこで'78年〈大須大道町人祭〉起ち上げに参加。その第1回実行委員長に原智彦が就く。オートバイサーカス、暗黒舞踏、寺山修司による女相撲の土俵入り、

ギリヤーク尼ヶ崎など、その時点で可能なものを詰め込んだ。祭りは後に「事件だ」とNHK記者に言われるほどの大成功で、「そのときのDNAは今でも大須の人に、町に残っている」。

このとき初めてロックオペラに歌舞伎のスタイルを取り入れ『楼門五三桐』を上演。西大須にあった石川衣裳のおじいちゃんの衣裳の着付とメイクで、原は石川五右衛門を演じた。石川のおじいちゃんは昔地方を回った歌舞伎役者で、原の歌舞伎の最初の先生である。「すごく格好良くてね、歌舞伎の扮装で僕が踊ったのを観ていた岩田さんが、これが本当の歌舞伎だ！ って言った」。

スーパー一座結成

'79年〈スーパー一座〉を結成し、原は座長に就任。脚本演出は岩田、プロデュースとマネジメントと役者を原が担った。旗揚げ公演は大須演芸場でのスーパースペクタクルロックカブキ（後の〈ロック歌舞伎〉）『絵本弁慶記』。これは松羽目の『勳進帳』より古く、娯楽性の高い『御鼻貞勳進帳』が底本。かつての大須は芝居小屋が林立しており、岩田家の裏が新歌舞伎座という下町版の歌舞伎小屋だった。「だから岩田さんは小さい頃しょっちゅう観てるわけです。今の歌舞伎が自分の観たのとあまりにも違う、ということで江戸時代の香りのするもっとパワフルなのをやろうと始めた」。

旗揚げ公演以後は大須演芸場や路上、スタジオ200（東京池袋西武百貨店）、鈴蘭南座（名古屋）、中日劇場、名古屋市民会館と会場はさまざま。テレビ出演やドキュメンタリー番組取材もあり、一躍注目されるようになる。

結成4年目の'83年に初の海外公演をロンドンのブルームズベリー劇場で、翌'84年オランダ・ロッテルダムジャパン・フェスティバルに招待され、'85年はスウェーデン、デンマーク、オランダ、ドイツ、ベルギーの32都市巡回ツアーを行う（この時メジャーデビュー直前のバンド〈ローザ・ルクセンブルグ〉を帯同）。'87年オランダ、ベルギーの19都市、'91年ドイツのワイマールとベルリン、'92年オランダのハーグとアムステルダムといった具合に、都合6回ヨーロッパ公演ツアーを行う。

ヨーロッパ公演の間に国内公演の数も増えていったが、それを支える役者の調達は大須の仕事だ。結成当初は従業員も役者にしたが、それでは会社が潰れるからと途中で従業員を役者にするのをやめた。喫茶店で全然知らない学生たちを口説いて雑兵役にするようなこともしたので、〈人買い原〉と言われたことも。芝居を観てやりたいという人や、'92年に作ったスーパー一座演劇研修所の卒業生

も団員にした。研修所の指導役は主に原である。'84年スーパー一座運営のため（有）スーパー企画を設立し、原が代表取締役社長に就任。

大須師走歌舞伎と大須オペラ、一座解散

スーパー一座結成10周年の'88年、日本で腰を落ち着けてやろうと〈大須師走歌舞伎〉を始め、大須演芸場を定小屋とした。第1回の演目は『鳴神』『助七由縁大須桜』。以後'08年の第21回の最終公演まで大須恒例の年末行事となっていた。

「12月はだいたい軌道に乗って、夏もやろうって夏歌舞伎を考えてみたけれど、岩田さんがいっそのことオペラをやろうと、最初に選んだのがギルバート&サリバンの『ミカド』。僕実は音痴なの。よりによってこんなことやらんでもいいのにと思ったけど、一生懸命歌った。脇役と裏方で支えた。いい勉強になったよ」

こうして〈大須オペラ〉も始まる。演目は明るくユーモアのあるオペレッタが多く、大須演芸場での上演は17回にのぼる。



第21回大須師走歌舞伎「御鼻貞勳進帳」
2008.12.11 大須演芸場 写真:安野 亨



大須オペラ「ユートピア株式会社」
2003.7 大須演芸場 写真:安野 亨

’08年の師走歌舞伎を最後に一座は30年の歴史を閉じる。「でもね、全く悔いがない。本当にやり切ったなあって。それも全部お客さんのおかげだよ。絶対お客さんを裏切らないってことが岩田さんと僕を支えてきた」。



婆の踊り「姥捨」
2005.4.24 K・Dハボン 写真:安野 亨

ハラプロジェクトの始動

’04年から原は役者としてスーパー一座以外の芝居に客演し始め、翌年〈ハボン劇場プロジェクト〉を立ち上げて、JR鶴舞駅高架下のK・Dハボンで『姥捨』を上演する。

「人の死に方として『榎山節考』のおりんさんがずっと頭にあった。それに謡曲をやっていたから『姥捨』はいつかやりたいと思っていた。で、知久寿焼さんのライブで彼の曲を聴いている時に、婆さん姿の僕を背負って行く息子の映像が目の前に見えた。僕は音を聴くと絵が見えるんです。そこで知久さんに僕と一緒に芝居やりませんかって言って、結果『月がみてたよ』っていう名曲ができた。この芝居は謡曲からオリジナル台本を書いて、音楽は全曲知久さん」

翌’06年胃ガンを発症。手術前に5年生存率50パーセントだと言われた。いつも〈命〉がテーマだが、命というものがよく見えたという。この年予定していた『北斎とお栄』は翌年に先送りしたが、オペラと歌舞伎の舞台には立った。ハボン劇場プロジェクトは『人喰いサーカス』『草枕』『ダンス・ダンス・ダンス』と続き、原演劇の原点である『姥捨』は今日まで何度も再演され、インドネシアにも渡っている。

スーパー一座が幕を閉じた師走歌舞伎最終日の終演後、〈タートルアイランド〉の永山愛樹を知人から紹介される。「彼らのCDを聴いたら『マクベス』の戦闘シーンがバーツと眼前に流れた。すぐに電話で、一緒に革命を起こそうよって。愛樹は〈パンク〉には抵抗があったらしいけど、パンクはピュアという意味で使うんだと説得した」。〈パンク歌舞伎〉の誕生である。

パンク歌舞伎第1作『マクベス』は’10年12月名古屋能楽堂で公開された。西洋楽器と民族楽器からなるタートルアイランドの楽曲とともに演じられる歌舞伎は、ロック歌舞伎再演ではなく、〈ハラ歌舞伎〉と呼ぶべきものだった。これを機に、ハボン劇場プロジェクトは〈ハラプロジェクト〉と改称。パンク歌舞伎は名古屋能楽堂を定小屋として現在まで5本を上演している。

’12年からは永山愛樹らによって持ち上げられた〈橋の下音楽祭〉に毎年参加。豊田大橋下の矢作川河川敷に小屋がけして芝居を続け、’18年は矢作川ほとりの野外で日没頃『藪の中』を上演。それは電気照明を一切使わない〈無電力芝居〉だった。

〈HAIKAI劇場〉も’12年から始めた試み。観客は七ツ寺共同スタジオという作られた演劇の空間と大須商店街という現実の日常空間双方で観劇するというものである。近年はサイモン・ピゴット宅である祭文亭（長野県大鹿村）や、農村舞台寶栄座（豊田市怒田沢町）での定期公演も始めている。今年度から原智彦演劇技術教室も始まる。
※詳しくは〈<http://haraproject.com>〉

稀代のパフォーマーとして

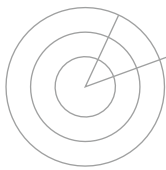
90年代終わり頃から原が続けている〈HAIKAI〉というパフォーマンスがある。1秒を1分に伸ばす程の遅々とした動きで展示会場に歩いていく。会場に入ると音楽が始まり、ゆっくりとした動きのまま作品を観て会場を出るという単純なものだ。だがそれは原が自然児として身につけた身体能力、中電時代の謡曲、弓道、ソシアルダンス、サッカーで育んだ身ごなしや空間認知力、石川老人と市川少女歌舞伎の市川升十郎伝承の歌舞伎の所作、西川流舞踊、市川流舞踊、大駱駝艦の舞踏などの全てを身体化した表現であることを知っておきたい。

野外彫刻展から始まり、ゴミ展示、ゴミ裁判と『ゴミ姦報』・ゴミ巡礼、ゼロ次元儀式、彫金アクセサリー製作、市長選運動、KICK、頭脳戦線、ロックオペラ、大須大道町人祭、スーパー一座、HAIKAI、ハラプロジェクト……と原の表現活動を振り返ると、そこには稀代のパフォーマーの姿が浮かぶ。だがそれはただ〈演技する人〉ではなく〈行動する人〉〈実行する人〉としてである。面白いと思ったことには躊躇なくとり組み、梓にとらわれず実現してきたのが原智彦だからだ。



パンク歌舞伎「地獄極楽」
2018.12.23 名古屋能楽堂 写真:安野 亨

ピックアップ



すぐそばの町にあるワクワク・ドキドキ ——山車まつり見学のすすめ——

祭りの日——。建物ほどに大きな山車が、大通りを悠々と、時には路地を縫うように進みます。笛の音色や太鼓・鼓のリズムに浮き立つ心。ちょうちんやのぼりに彩られた町を、山車を追って早足で歩く楽しさは格別です。

去る5月15・16日は、名古屋の中心部にある若宮八幡社の、令和になってはじめての祭りでした。山車行列が若宮八幡社と那古野神社を往復し、両神社と途中の数力所あぐろくじゆと唐子からこ2体の人形によるからくり披露があります。車の正面では魔振り人形が山車の行く先を祓います。山車の前には綱を長く引きだし、揃いの浴衣が実に爽やか。平日の本町通りを、桜通、錦通、広小路といった大通りを横切りながら進むさまは壮観です。

戦前まで若宮祭りの山車は7輛でしたが、戦災で5輛が焼失してしまいました。福祿寿車とともに焼け残った河水車は、今は毎年6月第1土・日曜日に東区の出来町天王祭で、中之切の山車として活躍しています。

愛知県内は山車まつりの宝庫といわれています。「愛知県の山車まつりポータルサイト あいちの山車まつり」*によれば、愛知県内の40市町村に合計422輛の山車があります。尾張地方にはからくりを搭載した山車が多く、三河地方には花車や提灯など、からくり以外の山車が多く見られます。

山車まつりは2016年、それ以前に国の重要無形民俗文化財に指定されていたものが、ユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に登録されたことで、がぜん注目を浴びました。ですが、文化財指定の有無や、人出や規模の大きさ、観光化の度合い、そういったものに関係なく、山車のそれぞれに、地域とともに生きてきた魅力があります。

筆者は前日の14日の夕刻にも、若宮八幡社を訪ねました。境内の車庫では折しも山車の準備中。数人が静かに、道具箱を山車に運び込んでいます。町内総出ではないのかな、と思って声を掛けると、ここは旦那衆の祭りなので、もろ

もろの作業は人を雇うのが昔からのやり方とのこと。車の数だけ習わしがあることも、祭りの魅力の一つです。

筆者が大学のゼミで山車まつり見学をしたときのことで、ネパール人留学生が「私のふるさとにもあります」と目を輝かせました。古都バクタブルのマチェンドラナート祭のことで、ウェブサイトで見ると、祇園祭の長刀鉾によく似ています。他の学生たちも地元の祭りを紹介しはじめ、ゼミは一気に盛り上がりました。祭りは本来、民族や信仰と深く関わるものですが、祭りのワクワク・ドキドキには、それらの違いを越えて人と人をつなぐ力があるのです。

7月以降も、名古屋市内や県内外のあちらこちらで、山車まつりが多く見られます。すぐ近くの町で、あるいはちょっと足を伸ばして、ワクワク・ドキドキを体感してはいかがでしょうか。

(米田 真理)

*あいちの山車まつり ウェブサイト

<https://www.dashi-aichi.jp/>



錦通本町の交差点を横断する福祿寿車



名古屋能楽堂玄関に飾られている橋弁慶車のからくり
(かつて東照宮祭で七間町の山車に乗せられていたもの)

いとしの サブカル

トリックアートの不思議さ 楽しさに魅せられて

トリックアート作家

わたなべ けんいち
渡辺 健一

愛知県出身、名古屋市昭和区在住。全国トリックアート公募展、入賞、入選多数。トリックアート専門作家、テレビ放映 65 回。主要新聞、雑誌多数掲載。2019年10月に開館 10年目を迎える「渡辺健一トリックアート美術館」を運営。

皆さんはオランダの版画家、エッシャーの「滝」というタイトルの作品をご存じでしょうか。そうです、塔の上から水が滝として下に流れ落ちている作品です。ですが、下に落ちた水の水路の流れを追うと不思議なことに、また、元の塔の上の滝口に戻ってしまいます。ここで人々は頭の中が混乱し、不可思議な感覚に陥ってしまいます。このような絵が「だまし絵」とか「トリックアート」と呼ばれているものです。トリックアートの起源は古く、13～14世紀頃、ヨーロッパで盛んになったといわれています。絵の具の色が全色完成した後のことです。絵の具の色が揃ったことにより画家たちはモチーフを忠実に描くことが可能となり、その当時は本物に見えてしまうように描くこと自体を「だまし絵」としていました。例えば、今でもヨーロッパ各地に見られますが、昔は窓の数で税金が決められていたので、本物の窓の代わりに壁に本物に見える窓の絵を描き、税金を取り立てる官吏の目を欺き揶揄したともいわれています。また、かの有名なレオナルド・ダ・ヴィンチ（1452～1519）は円筒鏡式アナモルフォーズを完成させています。その後、イタリアの画家アルチンボルド（1527～1593）が野菜等で人の顔の寄せ絵を制作、しかも、さかさ絵に変化する作品を描き、人々を驚かせました。また、我が国でも江戸時代、版画で作られた「さや絵」という存

在が確認されています。歪んでいてよく判らない絵なのですが作品の中心部に刀の鞘を立てて漆の鞘に歪んだ絵が映ると、映った絵は歪んでおらず正しい普通の絵に見えます。さらに歌川国芳は何人も人の身体で人の横顔になる寄せ絵を作っていて、さぞ人々は驚愕した事でしょう。そして、近年では、私が最も尊敬する20世紀最大の画家といわれているスペインのサルバドール・ダリも多くのトリックアート作品を遺しました。ダリはダブルイメージをよく駆使しましたが、ある物に見えていた絵が、見方を変えると全く違うものに見えてしまう絵、また3D錯視（同じような絵を2枚並べ目を錯視させると、なんと2枚の絵の真ん中にもう1枚絵が出現、その画像が立体的に見える作品）なども制作しました。現在では作品の中に何かの仕掛け（トリック）がないとトリックアートとは言いませんが、トリックが解明できたときの驚きや、面白さが体験できる芸術の一分野です。意表を突く不思議さから昨今はコマーシャルなどでも多くみられるようになりました。トリックアートの分野はこのコーナーのタイトルのようにサブカルな一面があるようにも思われますが、人々をアツと言わせることができる楽しい絵画の分野であることをお伝えしたいと制作を続けます。



凧と独楽
(油彩 / 円筒鏡式アナモルフォーズ)



21世紀の予感
(油彩 / かくし絵)

古謝美佐子 コンサート

2019

8/25 | 日 | 開演 15:30
開場 15:00

中川文化小劇場

タイトル文字 筑紫哲也

沖繩の
ニミスの
うたの
たの



出演

古謝美佐子 歌・三線
佐原一哉 キーボード 他

予定主要演奏曲目

「童神」「花」「アメイジング・グレイス」「ボノロイの山々」
「子守唄メドレー」「戦前戦中戦後民謡メドレー」他
※曲目は変更になる場合がございます。予めご了承ください。

全指定席

事業団友の会新規入会キャンペーン価格 **3,500円**

キャンペーン特典として1年分の友の会会員権をプレゼント♪
この機会にご入会いただくと2,300円もお得です!

通常/年会費3,000円+会員価格2,800円 **今回/年会費0円+新規入会価格3,500円**

事業団友の会 大学生以下・障がい者等	2,800円	一般	3,800円
-----------------------	---------------	----	---------------

※大学生以下(前売りのみ)、事業団友の会会員(前売りのみ)、障がい者手帳等をお持ちの方も友の会価格で購入いただけます。
購入時に会員証、学生証、障がい者手帳等をご提示ください。
障がい者の方は、ご本人と付添1人まで、友の会価格でお求めいただけます。他の割引との併用はできません。
※3歳以上有料。3歳未満のお子様の入場はご遠慮ください。

チケット取扱い

名古屋市文化振興事業団チケットガイド(平日9:00~17:00/郵送可)
TEL 052-249-9387 名古屋市中区栄三丁目18番1号ナディアパーク8階

オンラインチケット購入 **事業団チケット** 検索

名古屋市文化事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業)
※工事中の施設がありますので、ウェブサイトでご確認ください。

チケットぴあ ※一般のみの取扱い
TEL 0570-02-9999 (Pコード: 153-758)

※セブン-イレブン、ファミリーマート(Famiポート設置店舗のみ)、中日新聞販売店でもお求めいただけます。
手数料等が必要です。

頼もしい味方をお探しですか？



集客・販促プランナー



アートディレクター



印刷コンサルタント

株式会社 駒田印刷株式会社 TEL(052)331-8881

〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 <http://www.kp-c.co.jp>

舞台VTR映像専科

ステージの感動を格調高い映像で追求します。



ビデオソフトの企画制作

有限会社 **エーワン・ビデオ・システム**

TEL (052)896-2256 FAX (052)896-4100

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。

ナゴヤ劇場ジャーナル

◎年間6,480円で毎月お手元にお届けいたします。
◎毎月24,000部発行 ※東海地方の演劇・舞踊・音楽公演・ホール、DM等にて配布

MP MANAGEMENT PRO 株式会社マネージメント・プロ

〒461-0004 愛知県名古屋市中区東区葵2-11-22 アバンテージュ葵305

TEL (052)508-5095 FAX (052)508-5097

URL <http://www.mane-pro.com>

業務内容

- ①舞台の企画・制作マネージメント
- ②イベントの企画制作
- ③芸術団体のコンサルティング
- ④舞台・イベントの運営



WE MAKE YOU MOVE
感動をあなたへ

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

20Hz ← → 20kHz



A&V
PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK

舞台音響・映像設備
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する

株式会社 **エーアンドブイ**

〒464-0846 愛知県名古屋市中区千種区城木町二丁目98
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909